

石見銀山、最大級の間歩へ行く〜大久保間歩〜

大久保間歩公開中

世界遺産石見銀山遺跡には、大小さまざまな「間歩(昔の坑道)」があります。その中でも、最大級の大きさを誇る間歩、それが「大久保間歩」です。江戸時代初期に開発され、たくさんの銀を産出し、また明治時代にも大規模な再開発が行われました。現在でも江戸時代と明治時代、両方の採掘の跡が良好に残っています。

大久保間歩には、「大久保間歩一般公開ツアー」で入ることが出来ます。ヘルメットを着用し、長靴をはき、懐中電灯を頼りにガイドの案内を聞きながら坑内を進む、探検さながらのツアーを体験できます。

公開区域を拡大

そんな大久保間歩ですが、今年度、その公開区域の拡大を目指して、整備を進めています。

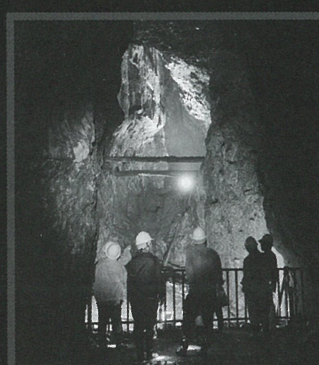
現在、公開しているのは、長い坑道のうち160m部分ですが、さらに、その奥にある「福石場」まで見学できるようにする予定です。「福石場」とは、銀を含む銀鉱石がたくさんあった場所です。

↑大久保間歩坑内の様子

福石場の銀鉱石があった部分は、現在、大きな空洞となっており、その大きさは、およそ高さ20m、広さ200㎡という広大なものです。当時の人々が銀鉱石を求めて掘り掘り掘っていった結果として、そのような大きな空間が出来たのです。福石場の公開開始は、平成29年夏を予定しています。今までの以上の迫力ある大久保間歩を楽しみにお待ちください！

お問い合わせ先

* ツアーについて
大久保間歩予約センター
☎ 0854-84-0750
* 公開区域拡大について
大田市役所石見銀山課
☎ 0854-83-8132



↑現在の公開区域の最奥部 公開区域の拡大で、この奥を見学できるようになる予定。

ふるさと納税で 大久保間歩ツアーへご招待

ただいま大田市では、「ふるさと納税」のお礼として、1万円以上のご寄附をいただいた方を大久保間歩一般公開ツアーへご招待しています。詳しくは、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」の大田市ページをご覧ください。



ふるさとチョイス 大田市

大久保間歩一般公開ツアー

開催日 毎週金・土・日・祝日(12月~2月を除く) 1日4回(午前・午後各2回)
定員 各回20名まで(1日80名まで)
● 事前申込: 大久保間歩予約センター
☎ 0854-84-0750
● 当日申込: 大久保間歩ツアーデスク
☎ 0854-89-0881



大久保間歩ツアー

シリーズ 石見銀山③④

—温泉津の町並みと整備事業2—

温泉津地区は石見銀山遺跡を構成する重要な地区の一つとして、平成19年7月に世界遺産に登録されました。今年度は昨年度の発掘調査から得られた成果に基づいて、シリーズで紹介していきます。

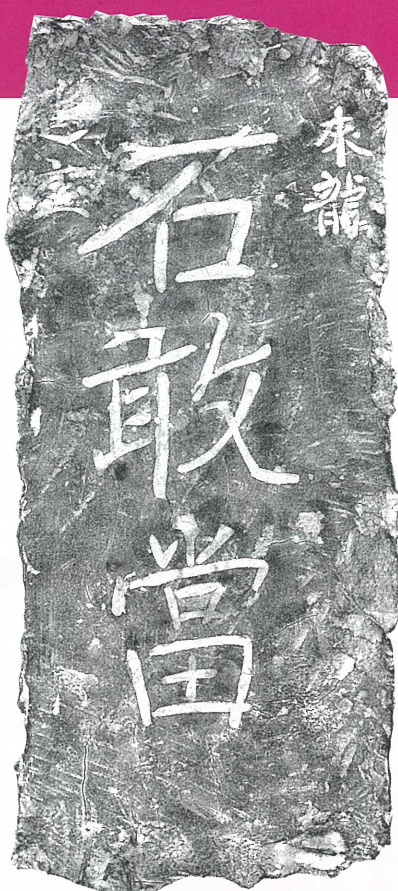
平成27年8月、湯乃街線の道路の下で発見された水路を調査していると、奇妙な石が見つかりました。幅約30cm、高さ約1m、長方形に加工された石の表面には文字らしきものが刻まれていました。調査員が墓石の類かな?と思ひ、洗って見たところ、表面に刻まれているのは墓碑銘ではなく「石」「敢」「堂」の三文字。これはいったい何だろうということになりました。

この石碑を持ち帰って調べてみると、実は「石敢堂」という魔除けの一種であることがわかりました。「石敢堂」は、中国南東部に位置する福建省周辺が発祥の地と考えられて

います。「石敢堂」は前漢時代(紀元前1世紀)に成立した辞書『急就編』にその名前が記されています。後の時代の注釈によると「敢堂」とは、「向かうところ敵なし」の意味であると解説されています。このことから、「石敢堂」の文字を魔除けの象徴として石に刻み込んでいるようです。

「石敢堂」は日本では主に沖縄や南九州を中心に、門前や丁字路に設置されるもので、本州や北海道でも存在が認められています。「石敢堂」には建立された地域や時代によって様々なパターンがあるようです。湯乃街線の調査で見つかった「石敢堂」を、よく観察すると「石」の文字の

来龍



湯乃街線の調査で見つかった「石敢堂」

左右に「来龍」「進玉」と線刻されていることがわかりました。この文字には、幸福を祈願する意味があり、文字や石の材質などをさらに詳しく調べることで、温泉津の「石敢堂」が、いつ、どこから来たのか、誰が建てたのかなどが明らかになるのではと期待されています。



大田市にある現代の「石敢堂」

ます。

さて、大田市にはその「石敢堂」を設置している民家があります。右の写真がその様子ですが、こちらは平成に入ってから、その家の方が交通安全を祈願して自宅の玄関前に設置したとのこと。市内を散策すれば他にも見つかるかもしれません。

お問い合わせ先

大田市役所石見銀山課
☎ 0854-83-8132

